

介助犬の情報満載マガジン「オトモ」

# OTOMO

## 知 つ て ね ！ 介 助 犬



かいじょけん

介助犬って言葉、最近よく耳にしませんか？

でも、実際は何をする犬なんでしょうか？ 少しでも皆様に介助犬について知っていただきたくてこの本を作りました。

ぜひお手にとってご覧ください。

より詳しく知りたい方は

ご自由に  
お取りください

発行

社会福祉法人・厚生労働大臣指定法人  
日本介助犬福祉協会

# 介助犬って?? Q & A

**Q** 介助犬はどんな仕事をするのですか?

**A** 体の不自由な方の日常生活の手助けをします。例えば一緒に学校に行き、ペンを落としたり拾ってくれたり、車イスで段差を乗り越えるのを手伝ったりしてくれます。どのような介助が必要かはユーザーさんによって違うので、介助犬はそれぞれのユーザーさんに合わせてふさわしい介助動作ができるように訓練を受けます。

**Q** 介助犬は日本に、また世界には何頭いますか?

**A** 日本では、全国で47頭\*が厚生労働省に登録されています。アメリカでは2,000頭以上、イギリスでも1,000頭以上が働いていると言われていて、ことから、日本で介助犬がいかに不足しているかお分かりいただけます。

\*2009年5月現在

介助犬は、手足が不自由な方のために、物を運んだり着がえを手伝ったりしてくれる犬です。ユーザーさんにとっては体の一部とさえ言える存在。それなのにお店を同伴を断られたり、「仕事をさせられてかわいそう」と誤解されたりしているのは残念なことです。こうした問題を解決していくために、介助犬についてたくさんの方に知ってもらいたいと思います。

**Q** どんな犬でも介助犬になれますか?

**A** 通常、介助犬・盲導犬・聴導犬(=補助犬)は育成団体から貸与されることがほとんどですが、私たち日本介助犬福祉協会では「自分の介助犬は自分で育てよう」という考え方を大切にしています。ユーザーさん自身が飼っている犬を訓練することが多いので、犬種は様々です。ラブラドル・リトリバー、シェパード、シエラレイなどのほか、小型犬のパピヨンもトレーニング中です。法律にも犬種の定めはありません。大切なのは、優しく素直な介助犬になれるよう、その犬の心を育てることです。



ドアを開ける



筆管をつまめる



手助けをする

**Q** 育成にはどのくらい費用がかかるの? その費用は誰が負担するの?

**A** 介助犬を育てるには、一頭あたりおよそ250~300万円かかると言われています。必要な介助動作はユーザーさんごとに違うので、一人ひとりに合わせたトレーニングが必要で、当協会では、ユーザーさんで自身で育成トレーニングができるように、無償でサポートを行います(ただし、介助犬を貸与する場合の食費や治療費などはユーザーさんの負担になります)。育成にかかると費用は、一部の自治体には助成金制度がありますが、組織の運営をすべてまかなえるほどではありません。費用のほとんどは一般の皆様からの寄付や賛助会員費で成り立っているのが現状です。

**Q** 介助犬は何歳からトレーニングを始めるのですか?

**A** 生後半年頃から、遊びの中で少しずつトレーニングを始めます。1歳を過ぎると、同じように楽しく遊びながらも、介助動作は「仕事」であるという意識を持たせるようにしていきます。



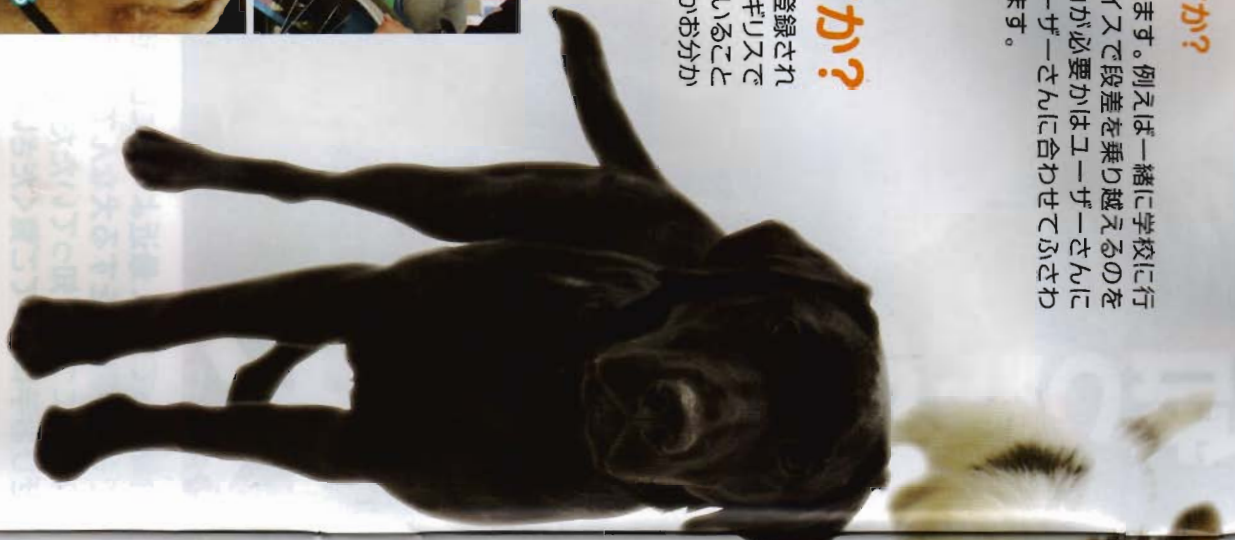
携帯電話を持ってこくる



段差を乗り越える



飲み物のフタを開ける



## Q 介助犬になるまでに、どのくらいの期間がかかるのですか？

A ユーザーさんごとに訓練項目や難易度が違うので、一概には言えません。しかし当協会では「自分の介助犬は自分で育てよう」という考え方に基づいて、ユーザー所有犬を中心にトリーニングを行っています。ユーザーさんと訓練犬の間に、大切なコミュニケーションがとれているという点があるので、1年くらいで介助犬になれることが多いです。



## Q 介助犬は、どのような訓練をするのですか？

A まずは、基本的な指示を守るように勉強します。次に、物を拾うなどの基礎的助動作を、毎日の遊びの中で自然と身につけます。続いてユーザーさんの希望動作を具体的に指導していきます。「菓の袋を開ける」「冷蔵庫を開けて、指示された物を持ってくる」などの高度な介助動作の訓練を行います。さらに、交通機関や多くの人が集まる場所でも落ち着いていられるためのパルプ訓練を行います。最後に、法律の定める認定試験に合格すると、晴れて介助犬の仲間入りです。

ユーザーさんによっては、「シット(座れ)」などの言葉を発するのが難しい場合もあります。そういった場合は、「あ(=座れ)」など、その方が出せる言葉に合わせて訓練を行います。



## Q 介助犬のトレーナー(訓練士)になるには資格がいるの？

A 国や自治体による公的な資格制度はありません。8団体が加盟する全国補助犬連合会による「介助犬トレーナー資格証明書」があります。年に1回試験があり、受験するには当協会の推薦状が必要です。

## Q 訓練で一番大切なことは何ですか？

A 一番大切なのは、訓練する人の心を育てることです。犬を理解し、人と犬とが共存できる社会の素晴らしさを理解するための心の勉強に時間がかかります。これはトリーニングを行う上での、基礎の部分です。この基礎がしっかりできれば、あとは楽しくトリーニングすることができますし、どんな犬種でも介助犬になれるように指導することができます。

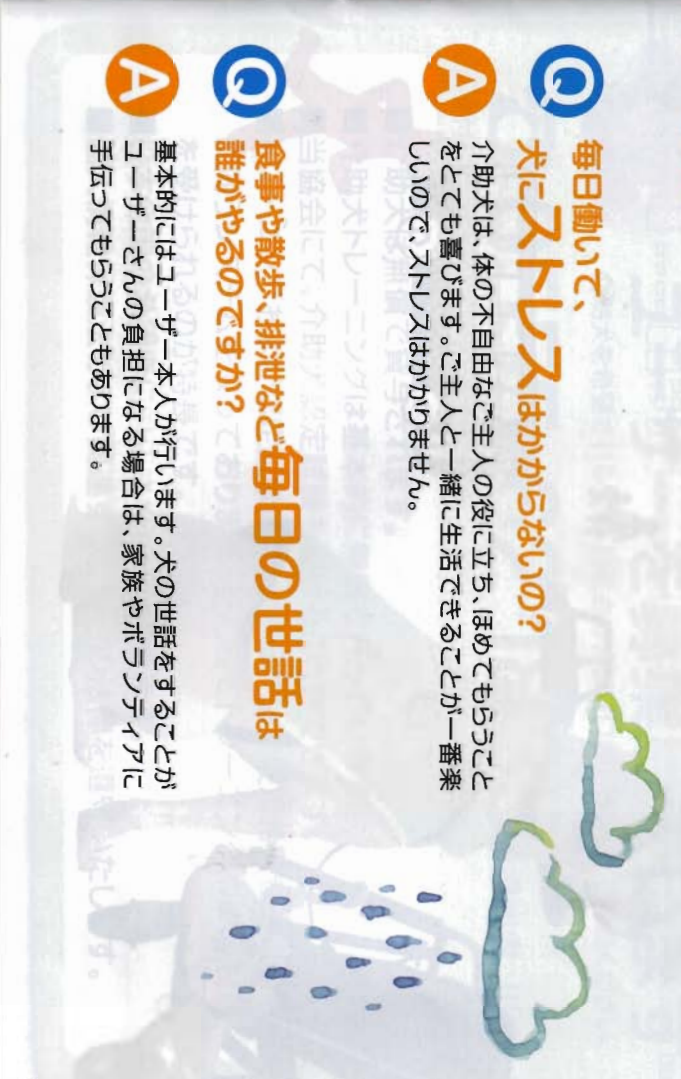


## Q 毎日動いて、犬にストレッチはかからないの？

A 介助犬は、体の不自由なご主人の役に立ち、ほめてもらうことをとても喜びます。ご主人と一緒に生活できることが一番楽しいので、ストレッチはかかりません。

## Q 食事や散歩、排泄など毎日の世話は誰がやるのですか？

A 基本的にはユーザーさんが行います。犬の世話をすることがユーザーさんの負担になる場合は、家族やボランティアに手伝ってもらうこともあります。



**Q** 何歳頃までお仕事ができますか？

**A** 大型犬の寿命は14～17歳と言われています。10歳を過ぎると体力が落ちてくるので、引退の時期を考えます。



「ソコからの起き上がり介助」

**Q** 引退したらどうなるのですか？

**A** 引退後は、そのままユーザーさんのペットとして次の介助犬と共に暮らす場合や、ボランティアのおうちで幸せな老後を過ごす場合など様々です。



「刺り春を刺す」



**ユーザーを募集しています**

介助犬を希望される方は、当協会の相談窓口までお気軽にご連絡ください。

**☎ 05555-62-1835** (担当者:川崎)

受付時間 9:30～17:00(月～金曜日)

- 介助犬は無償で貸与されます。
- 介助犬トレーニングは基本的に無償で行っています。
- 当協会にて、介助犬認定試験も受けることができます。
- トレーニングおよび認定試験は、協会から介助犬使用者のご自宅に伺うシステムを取っております。安心してトレーニングや認定試験を受けられるのが特長です。
- 日本全国の希望者に対応させていただきます。
- 個人情報保護法および関連するその他の法律を遵守いたします。

**Q** どんな場所でも自由に入れるの？

**A** 2003年10月1日から「身体障害者補助犬法」が完全施行され、公的施設、タウニングを含む公共交通機関、飲食店などの民間施設で、補助犬の同伴を拒んではならないことになりました。介助犬ユーザーは、外出の際には必ず介助犬認定手帳を所持し、求めに応じて提示しなくてはなりません。



**Q** 入店拒否されたときはどうしたらいいの？

**A** 入店を拒否されたら、介助犬認定手帳を提示し、他のお客様に迷惑をかけるまいとトレーニングされていることを伝えて理解を求めます。施設側は介助犬の入店を希望されたら、理解して受け入れる義務があります。



「介助犬ユーザー」に付く内容は、協会のホームページをご覧ください。

「介助犬ユーザー」に付く内容は、協会のホームページをご覧ください。

# 世界の介助犬

介助犬が世界で初めて誕生したのは、1970年代後半のアメリカです。その後介助犬の普及が進み、1990年にはADA法(アメリカ人障害者人権法)ができました。この法律によりアメリカでは、交通機関はもちろん、レストランやホテル、スーパーなどにも介助犬を同伴できるほどの市民権を得ています。

アメリカでは、日本のように行政への届出登録制度がないため正確な数は分かりませんが、現在2,000頭以上が活動していると言われており、世界で最も介助犬が普及している国です。イギリスでも1,000頭以上が活躍しており、働く犬の権利も法律で確立されています。

欧米では、資金面においても寄付金制度が確立されており、育成システムも充実しているため、訓練犬も常に十分な頭数を確保できています。一方、日本では、介助犬の育成団体がまだ十分な施設を持つことができず、訓練犬も各団体が年間2〜3頭を育成するのが精一杯という厳しい状況です。



# 日本の介助犬

日本の介助犬の歴史は、1992年に始まったと言われています。ひとりの障害者の女性が、アメリカで訓練された介助犬を連れて帰国したことが始まりでした。その後、日本の生活環境に適応した介助犬を育てるための試行錯誤を経て、1995年に国産第1号の介助犬グレイデル号が誕生しました。

現在、日本で介助犬を必要としている人は、約1万5千人いと推計されています。そして、介助犬訓練事業者として届出を行っている団体は、社会福祉法人から任意団体まで25団体\*ありますが、実働している介助犬の数はわずか47頭\*しかおりません。同じ「補助犬」に分類される盲導犬の実働数が1,000頭を超えていることから、いかに介助犬の数が少ないかお分かりいただけると思います。

日本の介助犬を取り巻く環境は、まだまだ課題が山積しています。介助犬を希望される方に一日でも早く、一頭でも多く無償訓練・無償貸与できる育成システムの構築が急務となっております。

\*2009年5月現在





ユーザー 路川みどりさん  
介助犬 ロード(11歳/ラブラドル・リトル・ハービー、ユーザー所有犬)  
必要な 指示された物を持ってくる等  
補助動作 2008年4月



ユーザー 大河内 正勝さん  
介助犬 ステン(8歳/ラブラドル・リトル・ハービー、ユーザー所有犬)  
必要な 物の抱い上げ全般、歩行補助  
補助動作 2008年11月

## 介助犬がいることで心がいやすられる

ロードは、日本の介助犬では初めて薬の開封、袋に入った食品のパッケージ開封、ばんそうこうをはがす等の指先介助を習得した介助犬です。ユーザーの路川さんとロードとの出会いは、脊椎損傷者協会の紹介でした。大好きだった路川さんでしたが、介助犬についての知識はほとんどなく、当初は戸惑うこともあったそうです。  
「ただ指示するだけでは、ロードと意思の疎通ができなかったことがあります。一緒に暮らすうちに、言葉を話せない犬を人間が理解することが大切なんだと分かったことから、コミュニケーションもうまくいくようになりました」。路川さんは、ロードの存在について、半分は介助、残り半分は安心感やいやしを与えてくれる存在と感じています。  
また、路川さんのご主人も車椅子で生活しているため、ロードは率先して二人分の介助をしています。路川さんご夫婦にとってもロードは、息子のような存在となっているのです。

# 介助犬 ユーザー 東奔西走!

## 介助はもちろん、家族の健康にも貢献

大河内家では、朝・昼・夜と1日に3回ステンと散歩するのが日課です。脳出血の後遺症で、杖なしでは歩行が難しい大河内さん。転ばないようにステンが上手にパランソを取ってくれます。大河内さんとステンはご近所では有名で、散歩中に声をかけられることがよくあるそうです。  
「毎日散歩に出かけることが、リハビリにもなっているんです。それに、ステンと一緒に近所を歩くことで、介助犬の存在を知ってもらえるきっかけになっていると思います」と話す大河内さん。

介助犬として、外では大河内さんの歩行補助をするステンですが、家に帰るとご家族に甘えん坊な一面を見せています。  
「ステンが帰ることで、心がいやされます。家族の一員です」と、ステンのお顔をなでながら目を細める大河内さん。また、ステンは大河内さんの介助だけでなく、奥様の健康にも一役買っています。夜の散歩は奥様が連れて行っており、「1時間かけて近所を回るので、良い運動になっています」と話してくれました。

## ユーザーの心のケアまで考えた環境の整備を

野口利男さんは、国産第一号の介助犬グレイデルのユーザーであり、日本の介助犬ユーザーの第一人者です。グレイデルは介助犬を引退後も野口さんと暮らしていましたが、2009年6月19日に18歳で永眠しました。今、野口さんのそばには2代目介助犬のユーザーが寄り添っています。もともと野口さんの飼っていたユーザーは、2007年11月に介助犬としての訓練を開始し、2008年10月に念願の介助犬認定試験に合格しました。

日本の介助犬の始まりの時代から、グレイデルそしてユーザーと共に「歩いてきた野口さんは、様々な苦勞をされてきました。2002年に身体障害者補助犬法が成立したことにより、公共機関や施設などの利用は徐々に改善されてきています。「今後は、引退した介助犬のリハビリ、介護施設や、苦勞を共にした介助犬がいなくなった後の、ユーザーの心のケアまで考えた法律や環境が整えばいいと思います」と、まだまだ改善の余地が残っていることを話してくれました。  
野口さん自身、さらに介助犬の認知度を高めるため啓発活動に貢献するために、ユーザーと一緒に講演会などにも積極的に参加したいと考えているそうです。



ユーザー 野口利男さん  
介助犬 ユーデル(6歳/ラブラドル・リトル・ハービー、ユーザー所有犬)  
必要な 物の抱い上げ全般、手先介助、指示された物を持ってくる等  
補助動作 2008年10月

# 介助犬の普及に

## ご協力をお願いします。

当協会の活動は、皆様からの温かい寄付や賛助会員費などによって支えられています。一頭でも多くの介助犬を育成するために、さらなる皆様の方をもっともお貸しください。皆様から寄せられた会費や寄付などは、介助犬育成費として、介助犬使用希望者に無償貸与・無償訓練を行うために使用いたします。

### 介助犬の応援についてお問い合わせは

#### 社会福祉法人 日本介助犬福祉協会

山中湖訓練センター  
〒401-0501 山梨県南都留郡山中湖村山中262-1  
TEL/FAX 0555-62-1835

宮城事務所  
〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2-10-15 仙台トラビル  
TEL 022-261-6882  
FAX 022-261-9063

東京事務所  
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-9-6 十全ビル202  
TEL 03-3581-5004  
FAX 03-5510-0123

URL <http://www.kaijoken.or.jp>  
e-mail [info@kaijoken.or.jp](mailto:info@kaijoken.or.jp)

### 募金箱の一時貸出

地域のイベントなどで介助犬育成の応援をとお考えの方には、貸出募金箱（紙製）をご用意しています。東京事務所までお電話にてお問い合わせください。

### 税制優遇について

賛助会員・ご寄付は、税制優遇の対象となります。所得税法および法人税法などの定めにより、寄付金の免税措置の適用が受けられます。寄付をした翌年の確定申告に当協会が発行する寄付金受領書を添付することにより、所得から控除されます。

私たちも介助犬普及に協力しています！

## 応援企業

社会福祉法人日本介助犬福祉協会では、賛助会員やボランティアの皆さんと並んで、民間企業からもご支援やご協力をいただいております。



協力 株式会社ライオンエイチシー

通販化粧品・健康食品メーカー大手のDHCは、介助犬を必要とする方が少しでも早く介助犬と出会い、自立と社会参加ができるよう、協会と共に様々な取り組みを行いたいと考えております。取り組みの一環として募金箱・情報誌・ポスター制作の支援や、DHC直営店に募金箱を設置して善意の募金を集めるお手伝いをいたします。

### 会員になって応援

継続的に、介助犬の育成を支える会員になっていただく方法です。お支払い方法は、はさみ込みの振込用紙、または当協会のホームページからクレジットカードでの払込も受け付けております。

普通会員	3千円 (年額/1口)
特別会員	1万円 (年額/1口)
法人・グループ会員	5万円 (年額/1口)

※会員の種類は、金額の違いによる便宜上の呼び名です。

### 寄付による応援

#### 一般寄付

ご自身で金額を決めて、寄付する方法です。お支払い方法は、右記へ銀行振込、はさみ込みの振込用紙、または当協会のホームページからクレジットカードでの払込も受け付けております。

※銀行振込の場合は、ご住所の確認ができないため受領書が発行できませんので、お手数でも協会までご一報をお願いします。

銀行振込先  
三菱東京UFJ銀行 上北沢支店  
普通口座 0745216  
社会福祉法人 日本介助犬福祉協会

#### 募金箱の設置

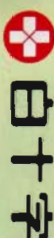
スーパーやコンビニ、飲食店、病院などに募金箱を設置して、介助犬育成募金を集める方法です。設置をお考えの方は、ホームページからお申し込み、またはお電話にてお問い合わせください。

#### 遺産寄付 (遺贈)

遺贈とは、遺言を残して、死後に自分の遺産を特定の人に分け与えることをいいます。遺産を介助犬育成のために役立てたいとお考えの方は、ご相談ください。

#### 書き損じハガキによる寄付

書き損じ官製ハガキや未使用ハガキ、切手を集めております。ハガキは切手に交換し、通信費（郵送料）として使わせていただきます。山中湖訓練センター宛にお送りください。



協力 白十字株式会社



協力 株式会社一丁

人々の「生活の質(クオリティ・オブ・ライフ)」を高めるため、医療・介護の分野から優れた製品およびサービスを提供するトータルケアカンパニーとして社会に貢献している白十字株式会社。2009年度より、大人用紙おむつ「サルパ」誕生25周年を記念して、売上の一部を介助犬育成事業のために寄付いたします。

「うおや一丁」を経営する株式会社一丁。刺身居酒屋の名前の通り、新鮮な魚介類を取りそろえて厳選素材を提供しています。「人にやさしく」をテーマに、店舗への補助犬の同伴を積極的に受け入れています。介助犬の普及に積極的参加し、全国の店舗に募金箱を設置してお客様の温かい募金を集めるお手伝いをしています。

払込金受領証

口座番号	002707	通常払込料金を加入者負担
加入者名	社会福祉法人 日本介助犬福祉協会	
金額	※	
ご依頼人	※	
料金	受付局日附印	
特殊取扱		

記載事項を訂正した場合はその箇所訂正印を押してください。  
切り取りしないで郵便局にお出ください。

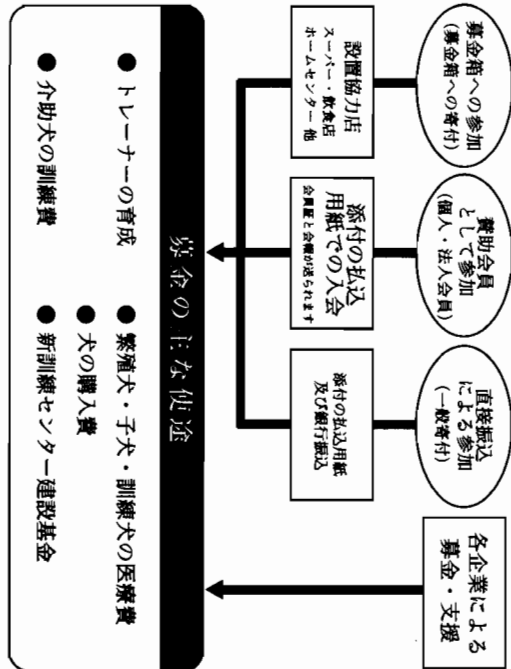
払込取扱票	通常払込料金を加入者負担			
02	002707	132125	金額	※
加入者名	社会福祉法人 日本介助犬福祉協会		料金	特殊取扱
ふりがな	氏名	性別	電話番号	
住所			( )	
ご寄付の内容	口数	金額	生年月日	
普通会員(年額1口)	3,000円	<input type="checkbox"/>	年 月 日生	
特別会員(年額1口)	10,000円	<input type="checkbox"/>	西暦でご記入ください	
法人グループ会員(年額1口)	50,000円	<input type="checkbox"/>		
一般寄付			受付局日附印	

これより下部には何も記入しないでください。

各欄の※印はご依頼人において記載してください。

社会福祉法人 日本介助犬福祉協会

皆さまからの寄付や基金は、介助犬育成のために大切に役立てます。是非、いろいろな形で介助犬育成事業にご参加ください。介助犬に、あたたかいご理解とご協力をお願いします。



口座番号 002707-7-132125  
 口座名義 社会福祉法人 日本介助犬福祉協会  
 ※法令により、現金で10万円以上のお振込をされる場合、郵便局にて本人確認が必要となります。運転免許証や健康保険証、パスポート等の身分証明書をご準備のうえ、窓口にてお手続きください。

振込先 三菱東京UFJ銀行 上北沢支店  
 口座番号 普通 0745216  
 口座名義 社会福祉法人 日本介助犬福祉協会  
 ※銀行によるお振込の場合は、住所の確認ができないため、領収証が発行できませんので、お手数でも協会までご一報をお願いします。